

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
 毎月1回1日発行  
 定価1部15円  
 印刷所 田辺印刷株式会社  
 上田市原町 TEL 1492

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
 発行所 社団法人千曲会  
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
 振替 長野 6243・東京 43341  
 電話 上田 1215(代表) 1218(直通)

## 実存と教育 —ハイデガーの場合—

信州大学講師(繊維学部) 池尾 健一

### 1. 実存哲学の特質

(1) 現実主義 Realismus 実存哲学という場合の実存は、Existenzの訳語であるが、それはラテン語の existentia に由来する。すなわち ex (外に) と sistere (立っている) から合成され「外に立っているもの」「現にあらわれているもの」という意味になる。したがって Existenz; existentia は、essentia (抽象的な本質) に対立する概念として、現実存在を意味し、かくて「実存」という訳語をつけられることとなったわけである。

以上は言葉の分析的な説明にすぎなかったが、さらにこのことを事実即して考察してみよう。実存哲学の祖はキェルケゴールであるが、彼は、ヘーゲルの絶対的な概念論 Idealismus に対抗しつつ相対的で有限な個別の立場を堅持した、といわれている。そしてこのことが、実存哲学をして、いちじるしく文芸に接近せしめたのである。すなわちキェルケゴールやアーチェらは、いずれも文芸を尊重しているのみならず、彼らの文体そのものまでもきわめて芸術的である。マルセルやサルトルは、哲学者であるのみならず、同時に作家ですらある。このようにみると、われわれは、実存哲学の特質として、第一にそれが現実主義の哲学であることを指摘できよう。

(2) 消極主義 Negativismus しかしながら、同じくヘーゲルへの対抗から出発し、きわめて現実的でもあったマルクス主義と、実存哲学はどうちがうか、という疑問が、ここに生じてくる。たしかにマルクスも、ヘーゲル概念論の逆転者として、一種の現実主義的な哲学(唯物論)をのべている。しかし彼は、そのことによって、同時にみずから近代精神の正統的な後継者であることを、主張しているのである。とくに『空想より科学へ』のスローガンからも明らかのごとく哲学を、実証的 Positiv な科学(経済学)に解体させるという方向にすすんでいる。ところで実証主義の原語である Positivismus は、同時に、積極主義という意味でもある。これに対して、実存哲学は、徹底的な消極主義 Negativismus したがって否定主義である点に、第二の特質を示すのである。このような観点から、実存哲学は、近代批判を行っている。マルクス主義が、近代の科学的精神を肯定し、その徹底化の方向で、近代の病弊を一掃せんとするのに対し、実存哲学は、マルクス主義の社会そのものにおいても、それが近代の延長であるかぎり(たとえば官僚制)、そこに批判の対象をみつけだすであろう。それはともかく、キェルケゴール、ニ-

チェ、ヤスパース、マルセルらは、まずその時代批判の鋭さによって、われわれに衝撃を与えたのであった。

(3) 超越主義 Transzendentalismus ところで消極的とは、受動的ということである。それでは実存哲学は、一体何の到来を待っているのであろうか? それは、近代精神がほこる合理的なものではないであろう。しかし合理的でないものを、ただ非合理的というのは、一つの同語反復(タウトロジー)にすぎない。たしかに実存哲学が待っているのは、単に合理的なものではないが、単純に非合理的ともいえないもの、あえていえば、超合理的なもの、とでもひとまず表現してみることにする。

しかしこのことは、『健全』な常識にとっては、きわめて実感にくいことでもあるから、それが一笑にふされるのを防ぐという範囲内で、一・二の例を指摘してみよう。たとえばここに、はなはだ権力主義的な政治家がいるとする。彼の過去と現在との行動は、常に民主主義を裏切ってきたとする。たまたま彼は、民主主義が時代の要請であることを知っていたので、民主主義擁護を絶叫したとする。われわれは、その絶叫のそら

ぞらしさを感じざるをえないであろう。だがその言葉をほくか、によって、われわれは、それに感動したりそれを軽蔑したりする。ということは、この世には、その人格と切りはなせない真理、その人を通じてのみあらわれる真実とでもいえるべきものが存在することを、われわれに暗示しているであろう。以上のことは、あまりにも卑近な実感にたよりすぎている、とも思われるから、つぎに歴史的な、とくにこの場にふさわしく、科学史的な例を考えてみよう。ルネッサンスのころ、同じイタリアにおいて、同じく地動説のゆえに、同じく宗教裁判で断罪された人に、ガリレイとブルノーとがいる。ガリレイは、自説をとり消し「それでも地球は動く」とつぶやいた。なぜなら、ガリレイの主張した真理は客観的な法則であり、ガリレイがとり消したにしても、彼をはなれてそのまま依然として、客観的に貫徹していくからである。これに対してブルノーは、自説の撤回をあくまで拒否し、7年間の牢獄生活ののち、火刑に処せられた。したがってこの場合、彼がもっとも大切と考えていたのは、客観的な真理よりも、むしろそれを主張している彼の主体的な真実であった、と考えられよう。この真実は、彼の主張と同時に生起し geschehen、撤回と同時に永久に失われるものである。いわば歴史 Geschichte における唯一回のかげがえのない真実である。それは、法則のように、繰返し実験することができる、



上田まつり 金井正一

というわけにいかず、その意味で合理的ではないが、しかもこれこそがブルノーにとって人生の生き甲斐となるものであった。そしてこの真実がなんらかの意味でわれわれの胸をうつかぎり、単に非合理的な行為とみなしえないであろう。

ブルノーは、かかる真実のために死んだ。彼も人間であるかぎり、生きのびたいと思ったことでもあろう。しかし真実が、彼を捉えてはなさなかった。ということは、この真実が彼自身のものでありながら、しかも彼自身を超えたもの、有無をいわず彼に贈られたものであることを暗示している。したがってこの贈り主は、超越者と名づけられよう。さきにわれわれは、実存 Existenz を、ラテン語の existentia (現実存在) から理解したが、Existenz は Eksistenz でもあるから、ギリシア語の ekstasis にも由来する。すなわち ek (から) と histēmi (たちあがる) から合成され「〜からたちあがること」「超越すること」いわば超越者と一体となった脱我 (エクスタシー) の境地をも含意している。したがって実存は、現実存在であると同時に、超越者に恍惚 (エクスタシー) としている現実存在でもある。かくしてわれわれは、実存哲学の第三の特質として、超越主義を指摘できよう。したがって実存哲学は、とくにケルケゴール・ヤスパース・マルセルらに顕著であるように、宗教へと接近していく。

## II ハイデガーの近代批判

以上が、ハイデガーを一面的に解釈してしまわないためのわれわれの作業仮説である。実際これらの特質は、ハイデガーを発展史的に考察する場合に、ほぼ妥当すると思われるがここはその機会ではないので、そうした作業を省略しよう。ともかく上述の三つの観点から、ハイデガーの思想をとりあげ、しかも教育の問題と関連しているかぎりにおいて、論ずるのが今日のテーマであるが、ここではとくに、前節 (ii) の観点を中心として、科学・技術と教育の問題を主題とすることとしよう。

(1) 科学 Wissenschaft ハイデガーによると、近代科学の本質は、探究 Forschung にある。

a) ところで探求は、前進 Vorgehen という特質をもつ。しかし前進とは、つねに何かにむかっての前進であるから、見取図の投金と結びつてのみ遂行される。したがって、科学における根本的な前進は、既成科学の形式内ではなく、新しい科学領域そのものの発見によって生ずる。たとえば近代のはじめ、アダム・スミスなどの努力によって、法から経済学が独立したように、ちかくはフロイドが、意識の底に潜んでいた無意識界という広大な領域を発見したようにである。

b) しかしいいアイデアを思いつくだけでは、まだまだ科学にならない。素人でも、また素人なればこそ、大胆に、いいアイデアを思いつくということは、しばしば可能であろう。しかも科学の名に値する探求は、見取図の投金を確認する作業 Verfahren を経てのみ、展開されるのである。自然科学における実験、歴史科学における資料批判、社会科学における実践などは、すべてこのような意味をもっている。

c) 前述のごとく、根本的な前進は、既成の形式を破壊するのであるが、それにもかかわらず、手近かで確実な前進のためには、作業がこれまでの成果で、一定の方向に準備されていることが必要である。実際われわれは、いつ生ずるかかわからない根本的な前進のためには準備ができないにしても、手近かで確実な前進のためには準備ができる。このことが、第三の特質としての企業 Betrieb を成立させる。このように一定の軌道をすでにしているという企業性格が、研究所を必要としているのであり、その逆ではない。要するに科学は迷うことのない考え方をめざし、計算器に象徴されているように、考えないことの組織化ともいえるであろう。

(2) 技術。ハイデガーは、近代技術の本質を配置または機構 das Gestell に求めようとする。近代人は、制作 Herstellen を意図的に貫徹しようとするため、かかる観点からあらゆる存在者が、いわば在庫品 Bestand とみなされ、いつでも注文に応ずる bestellen ように、配置され gestellt てあらねばならない。このように、みずからの要求に関連させて、一切を兩数的に機構のなかに配置するのであるから、人間は万物の主人となる。

しかしこのとき同時に彼は、主人の位置を保つべく、その機構に従って振舞わざるをえなくなる。客観的な自動装置としての機械の出現は、この現象を散発的なものから全面的なものとした。すなわち、人間もまた一存在者として、例外ではありえないから、やはり機構に配置され、労働力 (プロレタリアート) ・管理力 (三等重役) というエネルギーの体系に属するもの、いわゆる人的資源となる。要するに機械技術とは、人間が自己から袂別することの組織化である。

(3) 世界像 以上の科学技術に関する考察からも明らかのように、近代の本質的な特徴は、理論的には表象 Vorstellen であり、実践的には制作 Herstellen であり、かかるかたちでの主我性の確立である。このとき、あらゆる存在者は対象化されてしまうから近代の本質的な現象は、すべて主我—対象という図式 (シェーマ) にあてはまることとなる。もし存在者全体の名称を世界 Welt といい、対象的な一体系となった表象を像 Bild というならば、近代とは人間の主我が世界を像と考える時代、すなわち世界像 Weltbild の時代といえよう。一般に世界像という表現は、たとえば中世的な世界像から、近代的な世界像に変遷した、というぐあいに用いられているが、ハイデガーは、世界像という考え方のものが、すぐれて近代に属していることを指摘したのである。

(4) ニヒリズム ところで主我—対象という図式は、一切の存在者を対象化可能の視点のみからみる、ということの意味する。例えば医者は、一時的にであるにせよ、人間を人間としてではなく、人間におけるその肉体のみを対象化する。そしてこのときのみ、手術のごときも可能となるわけである。すなわち上述の図式においては、存在者は、ありのままの存在者としてあらしめられていない。存在は、存在自体としては許されず、むしろ無 Nihil である。かくのごとく、人間の主我的な態度がニヒリズム Nihilismus を生ずるのであるから、本来的なニヒリズムは、能動的ニヒリズムである。

実際ニヒリストという言葉は、ツルゲーネフの『父と子』に、はじめてあらわれた主人公パザロフは、科学の万能を信じ、その立場から、既存の諸価値をつぎつぎに破壊したので、ニヒリストと呼ばれている。このような動向を、思想的に、その頂点までおしすすめたのは、ニーチェの権力意志 Willezur Macht の説であった。ハイデガーによると、権力は、より多くの権力を意志しているときのみ、そのかぎりでのみ権力であり、意志もまた、それが意志であるかぎりより以上への意志でなければならないから、本質的には、権力と意志とは別のものではない。したがって権力への意志は意志への意志であるから、もともと不可能なことを望んでいたわけである。この不可能を前にして、しかも機構が支配しているとき、いきのいい人間は、パスカルのいう気晴し divertissement をもとめ、さらには反逆するにしても、太陽族、雷族に示されるごとく、その反逆すら型にはめこまれているのである。いきのわるい人間は、『河原のかれすき』のように、受動的ニヒリズムにおちいる。たいていの人間は、両者の中間にあつて、交互に動揺している。

## 第9回卒業式挙行さる

3月10日午前10時より母校講堂に於て第9回卒業式が挙行された。先ず小泉学部長の式辞に始まり伊藤学長より4学科卒業生93名蚕糸別科修了生3名、専攻科3名聴講生2名に証書授与、伊藤学長告辞があり来賓として文部大臣（森本工務部長代読）上田市長（小宮山収入役代読）井上学生後援会長学部改新期成同盟会長（柳沢副会長代読）千曲会代表（母袋千曲会副理事長）の祝辞があり在校生総代齊所裕君の送辞、卒業生総代松尾衛君の答辞、最後に螢の光を合唱して11時半頃終了した。

## 式 辞

本日信州大学繊維学部の第9回卒業式、信州大学繊維学専攻科第7回ならびに蚕糸別科第10回の修了式を挙行するにあたり、多数の来賓・卒業生ならびに修了生の父兄母姉各位のご臨席を忝うしましたことは本学部の誠に光榮に存ずるところでありまして厚くお礼申し上げます。これらのご臨席を忝うしましたことは本学部の誠に光榮に存ずるところでありまして厚くお礼申し上げます。

本日大学所定の単位を修得して卒業ならびに修了証書を授与せられた諸君は養蚕学科21・製糸学科16・紡織学科28・繊維化学科28・専攻科3・蚕糸別科3合計99名であります。これらの諸君は在学中よく学則を守って勉学にいそしみ、人格の形成に努力して今日のはえある目を迎えたのであります。このことは諸君自身の喜びであることはもちろんであります。諸君の今日あるを期待して養育にあられた父兄母姉の皆様のお喜びもさこそと推察いたされます。われわれ教職員も心から祝福申し上げます。

さて諸君は明日からはいよいよ実社会の人間としての第一歩を踏み出すわけですが、すでに国内国外の情勢別して諸君がこれから身を投じようとする繊維産業界ないしは技術社会の激動しつつある状態を研究し、やがては指導者としての第一歩をどのように踏み出すかについて充分な心構えをもっていることであらう。わたくしはここに学窓における最後のいっときを借りて所感の一部を申し述べて諸君の輝かしい門出における心構えの参考に供したいと思ひます。

この頃よく耳にする世評の一端に最近の大学卒業生には精神的な深さがなく、研究心がない、積極性がないという声があります。戦前と違って戦後の教育が自由に物を考え、かつ積極的に行動することを力説しているにもかかわらず、このような批評を耳にするのは不思議であります。これはあえて青年のみの罪でなく、最近の社会にとらと流れる軽佻浮薄の風潮の大きな影響の故であらう。しかし世の風潮がそうであっても、考えることを忘れた人間の個人生活が幸福であるはずはなく、個人の集団である職場や社会の発展もこれでは期待できません。パスカルもいうように人間は宇宙のなかで最も弱い一本の草にすぎないかもしれませんが、しかしこの草は考える力をもっています。この力こそ宇宙の偉大なる神秘をもあはく原動力であります。デカルトは書籍も学校も社会もなに一つ真実を教えてくれないとしてあらゆるものを疑いましたが、最後に疑がうわれのみの存在はいつに疑がうも疑がうあたわざる事実であることに気づき、コギト・エルゴスム訳して「われ思ふ故にわれあり」という有名なこ

とばを残しました。これが自意識を基調としての彼の唯物論の哲学となり、さらに演繹論として後世の科学の有力な方法を生み出したのであります。ダーウィンは解剖学的にも人間を動物の連続と考えましたが、心の面における両者のかけはなれの絶大の点には言及しなかつたのであります。実に人間の脳は奥行のしれない深さをもっております。

思索こそは人間的な深さを諸君に植付けてくれる唯一の道であり、またこれが実生活において諸君を向上させる有力な方法であります。近頃官庁や会社では企画部や開発部を設けあるいはチェンバー・オブ・ドリームの制度を考えているところが多くなっていますが、これらはいずれも激しく動く社会情勢や科学技術の革新に対処する方策の一つであります。しかしこのような制度の発展は単なる思いつきでは期待できず、常に深い考えと研究調査を必要とするのであります。もちろん思考は行動に引継がなければなりません。思考は行動の前提として意義があり、特に実業界にあっては行動力の要請が大きいののであります。従来インテリーの共通の弊として行動力の乏しいことがいわれておまして、積極性がないというのも一つの原因はここにあると思われまふ。諸君は充分この点に留意する必要があります。要するに諸君は世評にあるごとく単なるあやつり人形のような存在ではなく、常に深い洞察と研究心と積極的な行動性をもって事にあたり、指導者として立身する義務をもっております。

次に諸君がこれから入っていくとする実社会の複雑なヒューマンリレーションについてであります。諸君は自己の主張と周囲との相克に悩まねばならないことがしばしばありましよう。しかし己れは全く自由であり、そのまま善であるという独善主義に陥入らない限り、あるいはまた心の欲するままに己れを利しようとする振舞を振る舞わない限り、他人のエゴイズムと衝突することはなく、諸君の深い思索から出た主張は必ず日の眼をみるであらう。夏目漱石は晩年人間間のエゴのせめぎあいから抜け出す道として「則天去私」という思想を抱きました。この考えはそのまま現代の社会にも通用いたしましよう。

わたくしは諸君が、とかく空疎になりがちな実社会において心の豊かな人間として成長し、旺盛な研究心と行動力を發揮して社会の負託に充分こたえられるよう心から念願いたします。

昭和36年3月10日

信州大学繊維学部長

小 泉 清 明

テレビとステレオ

岩城屋ラジオ店

上田市横町 TEL 981

答 辞

本日は私達のために盛大な卒業式を挙げていただき、厚くお礼申し上げます。来賓各位よりのお祝辞、学長学部長の御訓辞胸にしみて私達一同、深く感銘いたすところであります。

私達も四年間の学業を無事終了し、栄えある卒業式を迎えることの感激を忘れる事は出来ません。又、私達に身をもって御教導下さいました先生方の御高恩に対し、感謝の言葉もございません。

月日は夢の間に過ぎました。しかし学業に、運動にと何にもかえ難い貴重な経験の数々を、私達は得ました。スキーに弓道にと、いろいろなスポーツ活動を通じて、又、いろいろな文化活動を通じて私達は団体生活の意味と義務と責任の貴さを学びました。

世界情勢の自まぐるしい中であって、これから社会人として果立って行こうとする私達の任務は非常に重大である事を認識して、正しく強く平和と真理を求めて邁進し、社会のために働く覚悟であります。私達の前途は希望と抱負に満ちていますが、社会は急テンポに進展していますので、過去の貴重な経験の上台を実社会の大地にしっかりと据え付けて社会の進歩と共に流れて行けるように、努力を重ねて行くつもりです。

後輩諸君よ

君達ともいよいよ今日限りでお別れです。諸君と共にこの由緒ある上田の地で、勉学にスポーツにと大いに論議をたたくかわし、大いに澄みきった青空の下で楽しんだよき思い出がなつかしく思います。諸君には、まだ学生々話が残っています。有意義な学生々話を過ぎることを願うと共に、自己の行動に信念と責任をもって行動して下さい。

先生方

私達を今日まで親切に御指導下さいまして、本当にありがとうございました。お別れしなければならぬかと思うと、いいしれぬ淋しさを感じます。しかし、たとえ別れ別れに暮らしても、幾多先輩の築かれた光輝ある伝統を若い夢にきざみ込んで推進したい意欲で張切っております。

どうか先生方、相も変らぬ公私共の御教導の程をお願いします。最後に先生方の御健康と御発展をお祈りし、後輩諸君の御活躍をお願いして、私の答辞といたします。

昭和36年3月10日

信州大学繊維学部 卒業生総代 松 尼 衛

工 作 機 械 製 作 販 売  
暖 房 配 管 工 事 一 式  
上 水 道 工 事 一 式  
土 木 建 築 請 負

上 田 市 大 字 常 入 1850

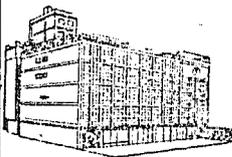
**宮 島 工 業 株 式 会 社**

取 締 役 社 長 宮 島 定 義  
TEL 9185~7

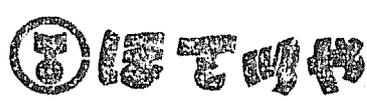
卒 業 単 位 修 得 者 氏 名

養 蚕 学 科	池浦 雅博	市川 忠史	浮野 武博	六場 孝
	奥田 守孝	上村 清	浦生 光代	北見 俊男
	小平 栄一郎	小森 三郎	柴田 豊	島田 朋昭
	鈴木 正明	関川 利治	田村 博一	戸塚 正彦
	永井 道	西田 勝雄	御子 繁壽山	宮川 賢次
製 糸 学 科	吉池 昭夫			
	安倍 正純	安藤 勉	井上 越雄	今村 久
	浦野 里美	小池 哲司	佐藤 和義	進藤 賢七
	鈴木 高	塚田 光朗	疋田 滋	松尾 衛
	松田 猛志	宮坂 照彦	山本 繁	渡辺 正俊
織 維 学 科	井原 妙子	江竜 耕次	大池 克夫	岡村 勇
	小野沢 勲夫	皆瀬 貞夫	北沢 昭義	久保 義明
	黒河 信義	笹岡 孝彦	杉藤 岑夫	高橋 洋
	知野 光伸	辻田 俊郎	所 周一	齋原 淳介
	中嶋 邦夫	中野喜久男	野呂田 進	藤原 孝行
	北条 幸男	朴 明哉	三沢 正介	三刀谷 教
	村野 美	柳田 尚	横井 博正	扇本 泰治
織 維 化 学 科	浅輪 出	井出 豊徳市	小川原 祥典	尾沼 安雄
	川上 博美	桑田 昌	酒井 啓助	塩沢 恵治
	高橋 修三	竹内 康弘	竹前 晴司	田中 秀雄
	堤 進	寺島 健治	中川 雄之介	中管根 一元
	野上 勲	林 勝巳	馬場 論	蛭川 嗣久
	福岡 孝史	古谷 隆男	柳沢 正良	山越 一男
	山岸 文明	山本 実	善藪 寛明	若林 吾郎
養 蚕 別 科	製 糸 課 程	小林 紀美子	新津 のり子	山極 多津江
専 攻 科	養 蚕 学 専 攻	白田 迪夫	和田 宗昭	
製 糸 学 専 攻	電 東 伴 之			
聴 講 生	吉田 守	西沢 芳智		

皆 様 の 百 貨 店



上 田 ・ 中 央



特 許 ・ 実 用 新 案

意 匠 ・ 商 標 出 願 ・ 審 判 ・ 訴 訟 代 理

**浜 特 許 事 務 所**

弁 理 士 浜 香 三

事 務 所 東 京 都 港 区 芝 南 佐 久 間 町 1 / 51  
電 話 東 京 (501) 9202  
自 宅 東 京 都 武 蔵 野 市 練 町 公 園 住 宅 7 / 302

### 信大繊維学部創立50周年記念事業

## 上田繊維科学振興会の発足に当って

蒲 生 俊 興

昨秋10月20日の佳日とし曠古の大盛典を挙げた母校信州大学繊維学部(元上田蚕糸専門学校及上田繊維専門学校)の創立50周年を記念し且つこの機会に母校と繊維業界との強力なる連繫を企図し、併せて繊維科学の発展を冀い、千曲会々員並にその関係者の貴重なる御寄与によって成立した上田繊維科学振興会は昭和36年2月10日の第1回理事会開催の日をもって記念事業としてめでたく発足するに至ったのである。

記念事業と申しても、世上屢々目撃するような建築物などは違って、殆ど無形の記念事業ともいべきものであるだけに本会の記念事業としての効果は、正に今後の運営の如何にかかっているわけであり、従って理事者の責務の極めて重大なるを痛感する次第である。

此の事業の目的はかねて理事者間で定款を検討中であつたが次頁掲載のとおり会則が決定したので、これに従つて本会の目的と事業の概要を記して見れば次の通りである。

#### 1) 上田繊維科学振興会の目的

本会は繊維に関する学術の振興と繊維産業の発展に寄与することを目的とする。

本会の記載する如く、本会は広く木学部に於て講究される繊維科学の全般に亘り、各種繊維の原料(蚕糸、羊毛、綿、麻及びパルプ等)から繊維製品たる絹織物、人造繊維類、合成繊維類、毛織物、木綿その他の天然又は人造繊維の全般に亘り、その原料の生産から製織加工及び仕上に至る基礎並に応用の両面における各般の学術並にこれに関わる産業界の振興発展に寄与することが主要目的となっている。

#### 2) 本会の事業

本会は前記の目的を達成するために次の事業を行うことになっている。

- (イ) 千曲会々員並に信大繊維学部教職員等の優秀な学術研究に対しての助成、又はその成果に対する表彰。
- (ロ) 信大繊維学部及び繊維産業の振興のために必要な事業
- (ハ) 学術研究と産業界との連絡及び協力の斡旋。
- (ニ) その他目的を達成するために必要な事業。

等の構想のもとに本会理事会の協議により、本会の資産から生ずる果実の範囲内で運営されることになっている。

即ち優秀なる繊維科学の研究に対する助成又は表彰に関しては別に定める研究助成並に表彰規程に従つてこれを選考し又本学部の発展や繊維産業の振興に関しては、本学部に於ける教授陣並に研究施設の拡充とか、或は学術講演会や研究成果の展示会などの開催も考えられている。

尚本学部に於ける学術研究と産業界との連絡及び協力の斡旋に就いては、産学協同の意味に於て、業界の要望に応じては別に定める委託研究規程に従つて、本学部も出来るだけ社会進出に乗出し、後日は追々本学部並に本会の事業内容を公表し又は産業界に於ける技術の向上を目的として研究成果の刊行なども考えられている。

#### 3) 本会の組織概観

本会には会務執行のために理事15名内外監事3名を置き、その内理事長、副理事長各1名、常任理事5名を互選することになっている。又本会には理事会の議を経て、本学部並に本会に功労あつた者のうちから、顧問及び賛助員を推薦することができ、又本会役員の変更並に本会の重要案件はすべて千曲会総会及び信大繊維学部教授会の議決又は承認を経ることになっている。

#### 4) 本会の設立に至る経過の概要

母校創立50周年の祝賀協賛会及び千曲会は数年前から記念事業の選択に熟議をこらした結果同窓生等の贈金による300万円を基金とする上田繊維科学振興会を母校創立50周年の記念事業として設けることに決定を見たのであつた。

昨年10月20日の50周年記念式の後千曲会理事会等で本会の設立について屢々審議を重ねた結果、まず本会設立準備委員会を組織し、昨35年12月22日に第1回、同27日に第2回の委員会を催し、まず本会々則の原案、本会役員を選任、及び基金の保管方法を協議し、本会基金の保管方法として最も安全で比較的有利と考えられる電話公債(利付)を購入することになった。

又本会の初期の役員は新に任期を1ヶ年として(通例は2ヶ年)下記の諸氏を頼むことになった。

理 事 長	蒲生 俊興	(信大名誉教授)
副理事長兼	田口 亮平	(信大教授)
常任理事	大平 敏彦	( " )
常任理事	小泉 敏所	( " )
"	三浦 荒太郎	( " )
"	柳沢 延房	( " )
理 事	荻原 清治	(信大教授兼 千曲会理事長)
"	香山 清 和	(千曲会理事)
"	小泉 清明	(信大繊維学部長)
"	山口 定次郎	(信大教授)
"	小林 運美	(科学技術庁参与)
"	八木 誠政	(日本学術会議会員)
"	黒岩 茂隆	(信大助教授)
"	坂口 育三	( " )
"	天白 一馬	( " )
監 事	呉 祐吉	(信大教授)
"	清水 運策	(信大繊維学部 事務 長)
"	竹内 善吾	(小泉蚕業高校 教 諭)

尚第1回理事監事会は本年2月10日に開催され、ここに本会が正式に出発することになったのである。

#### 5) 本会の使命と将来への展望

本会は元來財団法人として出発する予定であつたが、主務官庁の意見により、本会資金過少の故を以て財団法人の認可は困難の見込みなので、とりあえず任意団体として出発を見たわけである。本会の使命が信大繊維学部並に繊維産業界の進展のために貢献するに在るから、本会役員は信大教職員と千曲会員有志とを以て組織することになったわけである。

時恰かも母校50周年を契機として「信大繊維改新期成同盟会」を設けて繊維学部の改新拡充を期することとなり、2億有奇の予算を以て既設学科を整備し、繊維機械学科を増設し更に高分子工業研究所の新設を計画するに及んで、本学部と産業界との連繫は益々緊密を要するに至つた。従つて本学と産業界との仲介機関としての本会の使命は益々重要性を加はるることであろう。近年のように産業振興と技術革新の新时代において、所謂産学協同の實を挙げるためには本会の活躍に待つ所が極めて多いことと思われる。

(附記) 私こともより不敏、到底本会理事長などの重責を荷うべき器ではありませんが、各位の御推挙もありますので、暫く本会の礎石の固まるまで、この地位を汚したいと存じますから、今後とも一層の御庇護と御指導とを賜ります様切に御願ひ申上ります。

上田繊維科学振興会会則

第一章 総 則

第一条 この会は、上田繊維科学振興会と称する。

第二条 この会は、事務所を長野県上田市踏入九五六番地理事長宅内に置く。

第二章 目的及び事業

第三条 この会は、繊維に関する学術の振興と繊維産業の発展に寄与することを目的とする。

第四条 この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う

- 1 千曲会会員及び信州大学繊維学部教職員またはこれらを中核とする団体の優秀な学術研究に対しての助成、またはその成果に対しての表彰
- 2 信州大学繊維学部及び繊維産業の振興のために必要な事業
- 3 学術研究と産業界との連絡および協力の斡旋
- 4 その他目的を達成するための必要な事業

第三章 資産および会計

第五条 この会の資産は次のとおりである。

- 1 この会の設立当初千曲会の寄附にかかる別紙財産目録記載の財産
- 2 資産から生ずる果実
- 3 事業に伴う収入
- 4 寄附金品
- 5 その他の収入

第六条 この会の資産を分けて基本財産および運用財産の2種とする。

- 2 基本財産は、別紙財産目録のうち基本財産の部に記載する資産および将来基本財産に編入される資産で構成する
- 3 運用財産は、基本財産以外の資産とする
- 4 前二項の財産の決定する場合において、寄附者の指定がある寄附金品については、その指定に従う

第七条 この会の基本財産のうち現金は、理事会の議決によって確実な有価証券を講入するか、または確実な預金として理事長が保管する。

第八条 基本財産は消費し、または担保に供してはならないただしこの会の事業遂行上やむを得ない事由があるときは理事会の議決を経て、その一部に限り処分することができる。

第九条 この会の事業遂行上に要する費用は、資産から生ずる果実および事業に伴う収入等その他運用財産をもって支弁する。

第十条 この会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前理事長が編成し、理事会の議決を経なければならない、予算を変更しようとする場合も同様とする。

第十一条 この会の決算は、会計年度終了後2ヶ月以内に理事長が作成し、財産目録および事業報告書ならびに財産増減書とともに監事の意見をつけて、理事会の議を経て千曲会総会および信州大学繊維学部教授会(以下教授会という)の承認を経なければならない。

- 2 この会の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決を経て、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、また翌年度に繰越すものとする。

第十二条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利を放棄しようとするときは、理事会の議決を経なければならない。借入金(その会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く)についても同様とする。

第十三条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年

3月31日終る。

第四章 役員および職員

第十四条 この会には次の職員を置く。

理 事 10名以上15名以内(内理事長1名、副理事長1名、常務理事5名)

監 事 3名

第十五条 理事および監事は、千曲会理事会および教授会合議の上選出し、理事は互選で理事長1名、副理事長1名、常務理事5名を定める。

第十六条 理事長はこの会の事務を総理し、この会を代表する。

2 副理事長は理事長を補佐し理事長事故あるときはその職務を代行する

3 常務理事は理事長を補佐し、理事会の議決に基づき業務を執行する

第十七条 理事は理事会を組織し、この会の業務を処理する

第十八条 監事はこの会の業務を監督する。

第十九条 この会の役員任期は、2年とする。ただし何れもを妨げない。

- 2 補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする
- 3 役員は、この会の役員としてふさわしくない行為のあった場合、または特別の事情のある場合には、その任期中であっても理事会の議決により、これを解任することができる。

第二十条 この会には理事会の議を経て顧問および賛助員を推薦することができる。

第二十一条 この会には事務を処理するため、書記等の職員をおくことができる。

- 2 職員は理事長が任免する

第五章 会 議

第二十二条 理事会は必要に応じて理事長が招集する。

- 2 会議の議長は理事長とする

第二十三条 理事会は、理事の過半数出席しなければ議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき内閣をもって、あらかじめ意志を表示したものは出席者とみなす。

- 2 理事会の議事は、この会則に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決すところによる。

第二十四条 次にかかげる事項については、理事会は千曲会総会および教授会に意見をきかなければならない。

- 1 予算および決算についての事項
- 2 不動産の買入れまたは基本財産の処分についての事項
- 3 その他この会の業務に関する重要事項で理事長において必要と認めた事項

第二十五条 すべて会議には、議事録を作成し、議長が署名押印の上、保存する。

第六章 会則の変更ならびに解散

第二十六条 この会則は、理事3分の2以上の同意を経、かつ千曲会総会および教授会の承認を得なければ変更することができない。

第二十七条 この会の解散は、理事4分の3以上の同意を経、かつ千曲会総会および教授会の承認を得なければならない

第二十八条 この会の解散に伴う剰余財産は、理事会員および千曲会総会並びに教授会に同意を得て処理する。

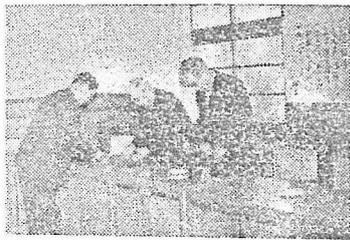
第七章 附 則

第二十九条 この会則の細則は、理事会の議決を経て別に定める。

第三十条 この会則は昭和36年2月17日より施行する。

### 林・八木両先生退官記念品贈呈式催さる

昨年3月定年退官された林、八木両先生記念資金贈呈式が3月4日午後1時より母校第一会議室においておこなわれた。式に先立って小山長雄氏、青沼茂氏よりそれぞれこの事業の経過会計報告があった。贈呈式は両先生をお迎えして学内外60余名の参会者を得ておこなわれた。まず発起人代表として小泉学部長の挨拶、続いて同氏より記念資



金が拍手の中に両先生に贈呈された。両先生から鄭重な謝辞がありついで久保田正樹氏、高木三治氏、荻原千曲会理事長より祝辞があつて懇親会に入った。両先生は至極御元気で参会者と久方振りの歓談を交わされ感慨深かぎであつた。最後に蒲生先生の主唱で両先生に万才が三唱され式が終つた。なお決算報告は近く抛金者各個に送附されます。

たちは皆日本語が分りますので不便はなく、いたれりつくせりの歓迎をしてくれています。

街路樹のユーカリノキ、ダイオウヤシモクマオウはさすがに台湾だと思えます。果物もしかり……バナナ、パパイヤ、ボンカン、パイナップル、スイカなどふんだんに御馳走になりました。レインとドリアンの季節を逸したのは誠に残念です。気候はまあ日本の夏でしょう。正午の気温は29°~30°Cが続いています。信州の寒さを思えば感慨また新です。第一年中蚊帳を吊らねばならないそうですから。しかし anopheles (ハマダラ蚊) はさされても心配ない由、マラリヤは発見すれば600円の賞金がもらえるくらい全滅したらしいです。金のことと云えば、こちらの100円は日本のほぼ1000円でしょう。台湾銀行では米ドル1ドル40円台幣で両替してくれます。紙幣は10元札が最高、5元紙幣、1元紙幣、5角銅貨(50銭)2角アルミ貨(20銭、日本の10円と同大)1角アルミ貨(10銭、日本の1円より一廻り小さい)でしまいです。多量の買物のためには馳一杯に紙幣をつめこんで出掛けねばなりません。生活費は寮生の場合400円でまかなっているのが普通だそうです。それだけに生活も貧しいのでしょうか、給料は安く助手の許君の給料は7月にベースアップになって900円(以前は500円)です。私は11月分の奨学金を12月1日にもらいましたが、これは800円です。奨学金は米人には3000円です。研究員の殆んどが米國に留学していることや、奨学金のことを考えるだけでもいかに親米的であるかがおわかりでしょう。

寮の飯は3日食えば必ず下痢するといわれる黒ずんだ小粒の固いごそごそした在来米の飯で30日の夕食を一回食べたきりで、以後全然食べていません。黒ずんだ凹凸に富んだアルミの食器を見、いかにもきたないらしい肥桶のような桶にほうり込まれたこの在来米を見るだけで閉口してしまいました。茶は寮にはなく開水(熱湯のこと)があるきり、朝飯は寮に来る商人の饅頭(マントウ……マンジュウのアンのないもの)2つですませ、昼は許君の家から弁当を持って来てもらい、夕食はこのところ食べていません。

米の話のついでに、台湾の米は上記の在来米の外に中村博士の改良された蓬萊米(中村博士の改良された蓬萊米)が

### 会員だより

#### 台湾便り

#### 竜川支会総会出席の記

清水 建美

上田からみるとさすがに南田飯田はあたたかい、集まるもつ20数名、それも若い人達が多かったのも心強く感ぜられた。針塚先生の追憶談が出て先生を知っているものは三名、特に半数は学部出身者各地で言われている年長、青年会員の間の意志の不円滑など全く見られなかった。会は支会長の挨拶(支会長不在のため副支会長代理)報告に始まり、私も学部改新の現状やら就職状況などを説明して今後の協力を要請した。

宴半ばで緊急動議が出て後任支会長の選出をすることになった。適任者多数のため意見まとまらず投票できめることになった。恐らく千曲会始めて以来のことであろう。その結果新興紡績社長、篠田正信氏が過半数で当選した。更に会員の意見を徴し、万場一致万雷の拍手をもって同君の当選を確認した。私も祝辞をのべ、若返り千曲会的一步を踏み出すことになった。次いで新支会長立ち施政方針が述べられた。会員相互の親睦融和をはかり、緊密な連絡をとって必要ならば会員諸君の職場も見つけてやろうと言う力強い発言があり、更に会費の納入については新しい構想をもって本部の希望に添い得るよう努力することをちかづけてくれた。今後の竜川支会の活躍が期待される。尚副支会長には支会長の要請で市瀬武寿君が選ばれた。

最後はパッパの応援のうちに新支会長の胴上げをし今後の活躍と健康を祈って開会した。(26.2.24 市瀬武寿)

21日の夕刻無事上陸しました。基隆港には、台湾大学農学院森林系主任教授劉榮瑞先生、理学部植物系助手許建昌君外2名が歓迎のプラカードを掲げて迎えに来てくれたのには大感激、早速歓迎の宴会に臨み12時近くまで話が賑いました。こちらのビールもタバコも大変よろしいそれにイカ物を食べる趣味が旺盛で22日の夜には台北市内をジープで一廻りした後、ブタの子宮やブタの皮ブタの腱、フカのヒレなどの料理を食べさせられました。台北の町の印象は、漢字だけの看板人力車、類似の三輪車、牛車、支那服が異郷の情趣を味わせてくれる以外は日本の町と変りがないということでした。しかし細かい点になるとやはり品変りまして追々に珍事実に遭遇することでしょう。御婦人連中が殆んど脚のつけ根まで両側の割れたスカートをはいて、足の線をすっかり見せてくれるのは誠にショッキングです。

街の中では台湾語が多いですが、私は北京語と英語をチャンポンにして何とかやってみよう。宿舎は当初許君の家で、ここでは日本語が自在ですので大変助かりました。30日の夜から大学の裏手の第9宿舍という研究生(大学院学生)の寮に移りました。同室は湖北と広東の2人で全然日本語が通用しませんので、ここでも中国語と英語のチャンポンで生活しています。教授たちには英語か北京語でなければ通じませんので、冷汗をかいてチャンポンで話さなければいけません。

差なくおいしく食べられます。中村博士のことは、私は無知でしたが、3才の童児から老人に至るまで中村米の名前を知っており、政府では数年前に日本に帰られた博士に毎年その功績に対し蓬萊米を送り届け博士の糧としているとのことでした。

6日は珍らしく森林系の友人の郭さんという人の結婚式があり、その披露宴に招待され台湾の近代的な結婚披露宴なるものをつぶさに見ることが出来ました。まず瓜子(種子を食べるための西瓜が輸入され、その種子を煎ります)が10人掛の丸テーブルに出されるとそれを割って食べます。台湾の宴会は必ず開始以前にこれが出されます。日本に持って帰ると中華料理店で高く売れる由。次は焼豚アヒルの卵のソーダ漬け(色が黒褐色になる)豚の肝臓などの盛り合わせ、これが引込められてからはじめて本式の台湾料理が第1ラウンドから第12ラウンドまで次ぎ次ぎと出されます。所要時間2時間、会場に人が揃うと爆竹がとどろき解散の折再び爆竹が強烈な響きを轟かせます。この間新郎新婦の現われるのは第

7ラウンドと第8ラウンドの間の20分位でした。ここで媒酌人の挨拶と劉教授、(郭さんの先生)の話があったきりで、あとは参会者の飲み食い終始する点日本の場合とよく似ています。試みにそのメニューを記録しましょう。

—爆竹—

Preliminary

- 第1ラウンド 紅ダangoのスープ
- 第2ラウンド フカのヒレ
- 第3ラウンド 台湾コロッケ
- 第4ラウンド 鼎鶏(ナマコと鶏肉の煮付け)
- 第5ラウンド 炒蝦仁(エビ)
- 第6ラウンド 鮑魚肚(アワビと豚の胃袋)
- 第7ラウンド 点心(シュウマイ、カテラ、サトイモ)

—新郎新婦顔見せ、退場—

- 第8ラウンド ウナギと貝柱
- 第9ラウンド 豚の腿
- 第10ラウンド 鯛

—スプーン洗淨—

- 第11ラウンド ケーキ
- 第12ラウンド ミカンのカンズメの熱いスープ

—爆竹—

台湾の料理の最高品は、ブタの腿、ワマコ、燕のよだれの三種だそうです。とにかく豚を徹底的に利用するには驚かされます。

さかのぼって、2日は劉教授主催の歓迎パーティーで16ラウンド(大陸料理)3日は近郊のお祭りによれば16ラウンド4日は市内で友人の晩餐によれば12ラウンドと、このところ毎晩飲んだり食ったりでおちつく暇もありません。台湾の酒も殆んど飲んだらうと思われます。最多種は24ラウンドだそうですがまだその機会に恵まれません。

ついですので変わったことをお知らせしますと、汽車のことを火車(普通列車)を慢車、急行を快車)自動車のことを汽車、バスのことを公共汽車といつて、日本の漢字をそのままではめて考えると大間違いをします。例えば「勉強」は大変辛いという意味「面白い」は顔が蒼白になると云う意味で日本語を直訳で発音すると全然通ぜず笑われてしまいます。

(筆者は生物学教室助手、台湾大学の招聘を受け昨年11月渡台しました)

針塚先生追想原稿および資料の募集

追想録刊行会の委員会初回の会合の記事にもしたように、追想録の内容は先生の小伝、先生の手紙感想文などのほかに多数の追想文を取録することになりました。朝夕先生に接した学生時代のほほえましい思い出、慈愛のお叱りに感激したり、社会人になってからの尊い御教導や御懇情の思い出などをおもいおもいの感懐をこめて書き綴って下さい。それはただに先生の追想記であるばかりでなく、同窓学友あるいは恩師諸先生の回想にもつながる筈です。どなたでも結構です。あなたの追憶をお寄せ下さい。また写真や資料もお借りしたいものです。それを編集担当者において処理編集し針塚先生追想録としての完璧を期したいと思ひます。

追想原稿は400字詰原稿用紙(縦書)6枚以内、〆切期日は本年5月末日とします。資料および写真はなるべく多数、返却を希望される向は添記して本年4月末日迄に御提出下さい。

「針塚先生追想録」予約募集

この追想録は限定出版ですが、その部数をきめることは頒価にも関連するむづかしい問題です。それで予約募集をします。期日は本年5月末日。頒価は一応500円~1000円と見込みましたがなるべく500円迄切下げるよう努力したいと思ひます。周囲の方々にもおすすめていただき1部でも多く予約申込下さい。

篇志寄附について

計画的な募金はいたしません、心からなる篇志寄附は歓迎すべきことです。追想録がなるべくひろく頒布出来るように、またこの事業がスムーズに運ぶように篇志の御援助を願ひます。

上田市信大徳維学部千曲会館内  
針塚先生追想録刊行委員会

上田繊維科学振興会昭和36年度歳入歳出予算書

歳入		歳出	
科目	予算額	科目	予算額
前年度繰越金	1,000	事務費	20,100
基本財産取入	157,000	業務費	128,000
雑収入	100	予備費	10,000
合計	158,100	合計	158,100

日本工業規格表示許可工場

日本石綿紡織株式会社

本社 長野市三輪本郷  
TEL (2) 2675 (3) 0093

総合建設工事一式

土木建築アスファルト舗装 設計施工  
上下水道衛生設備工事

長野県上田市大字常入682

宮 下 組

TEL (上田) 271-2071

